【ねがいましては】

平成１６年４月２６日
第１６５号　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　*KYOWA　SCHOOL*

「それぞれの世界」

　混沌とした世界情勢、イラク・拉致。毎日伝えられる平和とは程遠いニュースを聞くたびに、なんとも憂鬱な気持ちが全身を包み込もうとする。

　もしここが､全く情報の入らない世界であったとしたら､結構幸せな気持ちで日々を送っているのではないのか。

　情報化社会が生み出した、言いようのない矛盾に襲われます。

　私たちの普段の生活は、情報があって当たり前の社会。

　どこかの県で小学生が帰宅途中、見知らぬおじさんに蹴られたとか、学校の教諭が教え子にわいせつな行為をしたとか。そのような情報が流れると、途端に今まで迎えに行かなかったお母様方は迎えに・・・。男性教諭がすべて痴漢のおじさんに見えてしまったり。（私も含めて？？？）

　知らなければ、そのような行動や感情は持つ必要はないのにな・・・。ふっと思うのです。

　それこそ犯罪など金輪際聞いたことのない村があったとしたら、行ってみたいな。テレビやラジオも届かない、しなびた地域かもしれないけれど、個々が健康的な生活を営んでいれば、その方がずっといいのでは・・・。

　そう思ってみたり・・・。

　かなり逃避的な考えかもしれませんが、このような気持ちは私だけではないはずです。

　互いが譲り合い、互いが助けあい、互いが尊敬しあって生活する。欲の連鎖などどこにも見当たらない。

　お母様方がお子さんを見つめる目、欲の連鎖の中にどっぷりと漬かってはいないだろうか。

　「どこそこの○○ちゃんは、○○中学校合格したんだってよ。」

　「△さんちの息子さん、△高校だってよ。」

　知らぬうちに情報化社会の一員になりきっているお母さんたち。

　ある家庭では、一切他人の情報を会話の中に出さないように、小さい頃から徹底しているそうです。

　「××君ちさ、プレステ買ったんだって、いいなー。」

　このようなことも、しっかりと咎められる。

　それでは家族の中で話すことなど無くなってしまう。と、思っていらっしゃる方も多いと思います。

　そのような方は、きっとお子さんは勉強が大嫌いなはずです。

　ここがポイントです。

　その家庭では、毎日のように時間を決めて『読書タイム』を設けているそうです。勿論テレビは消されます。本だからといって難しいことはありません。絵本や紙芝居など、図書館をじょうずに利用しているのです。お父さんもお母さんも、絵本に夢中。家族全員が同じ絵本をまわし読みするので、気が付くと会話が弾みます。

　「あの絵本の○○さん、結局何処行っちゃったのかなー。」

　「そうね、きっと生まれ故郷にでも帰ったんじゃないの。」

　この家庭は平屋の一軒家で、２LDK に家族５人が生活しています。子供たちは物覚えがついたときから、こんな生活の中で育ってきました。学校ではいつもニコッとして、人気者。勝っても負けてもニコッ。クラスの中にその子がいることで、先生もとてもリラックスできているのだそうです。

　「成績成績と、神経過敏なお母様方が多い中で、Ａちゃんの存在がクラスの温かさを作り上げていることに感謝しています。」と、学校の先生。

　本物のしあわせ。理想のしあわせがそこにあります。

　もし私にほんの一握りのチャンスがあったとしたら、このような家庭を築いてゆきたいな。

　家庭をもたないチョンガーな男の夢ですね。（親の苦労の現実など知らない）

　とても貧乏で、とても臆病な男なのですが、一抹の夢を抱えている今日この頃です。

　４月になって受験生達が巣立ち、今が寂しさの極地のとき。５月病ならぬ４月病真っ盛り・・・・・。

　さて先ほどの家庭、どこで知ったのか聞かないでください。

　だって、私の理想とする作り上げた夢の家庭なのですから。でも現実的でしょ！はいお嫁ちゃん、どこかにいるのかな。テレッ！（かなり）　　I want to be a true teacher for students with all my heart.

　５月の予定

　　第一週、フラッシュ暗算検定試験合格発表

　　１４日（金）　　　　　　珠算・暗算検定試験申し込みしめきり

　　２６日（水）～２８日（金）　珠算・暗算検定試験実施。